

みなみはらいせき

戸田市 南原遺跡



戸田市は、荒川低地と呼ばれる土地の低いところにありますが、南原遺跡は、そのなかでも荒川（旧入間川）の氾濫によってできた自然堤防といわれる少し高いところにあります。

南原遺跡は、弥生時代から中世にかけての複合遺跡で、昭和44（1969）年に最初の調査が行われ、今回が10度目の調査になります。

今回の調査では、古墳時代前期の^{たてあなじゆうきよあと}竪穴住居跡1軒、平安時代の^{ほったてはしらたてもあと}竪穴住居跡2軒、平安時代～中世の溝跡10条、井戸跡4基、^{どころ}土壇7基、掘立柱建物跡1棟などが見つかりました。



古墳時代前期（約 1,700 年前）の第 1 号住居跡
 です。高坏など5～6個体の土器が—か所からま
 とまって出土しました。



第9号溝跡は、中世に掘られたものと考え
 られます。幅は約4mで、深さは1.5～
 1.8mです。その規模や形から屋敷などを
 区画する堀かもしれません。溝に埋まった
 土を観察すると1/3ほど自然に埋まった
 後、人の手で埋め戻したことがわかります。
 遺物は、中世陶器のほか平安時代の須恵器
 など出土しました。



平安時代（約 1,200 年前）の第 2 号住居跡です。
 北側の壁にはカマドが設けられていますが、一部が
 第 7 号土壌に壊されています。